

キャロル・サックさんの故郷に感謝の旅

(USA・ミネソタ州訪問)

唐丹希望基金代表 高館 千枝子

Requiem: Chinkon no Uta Pilgrimage - Upcoming Visit to Minnesota(November 9 - 16)



「**鎮**魂の歌 巡礼の旅」訪問地で、欠かすことのできない所の一つに、キャロル・サックさんの出身地、USA・ミネソタ州と始めから決めていたが、キャロルさんは東京に多くの仕事があって、「いつでも OK!」というわけにはいかなかった。

今年、キャロル夫妻は、7月から9月までの2か月間、宣教師の日本での活動報告の為、ミネソタに帰ったが、私が希望した11月9日から16日までの一週間、「プレーヤーショール感謝の旅」の実現のため、再度のミネソタ訪問を計画しました。

私は、ミネソタ訪問のプログラムを決めるため、6月と10月にキャロルさん宅を訪問し、旅の目的を二つに絞って準備することに相談しました。



- ・一つ目は、東日本大震災と唐丹サンタルチア祭・プレヤーショールの報告。
- ・二つ目は、日本文化の紹介。和服を着て抹茶を点て、抹茶と和菓子で交流。

キャロルさんは、夏のミネソタでの報告期間中、唐丹の「リラ・プレカリアとプレヤーショール」(唐丹サンタルチア祭 2011-2013)を紹介して、11月の「感謝の旅」の会場を決めて来ました。

11月6日(火) 私を迎える準備のため、キャロルさんは一足先に渡米。

11月9日(金) 高館、ミネソタに出発。

羽田空港から直行便で約15時間後にミネアポリス・セントポール空港到着。空港ロビーで、キャロルさんが待っており一安心！ 帰国までの6日間、キャロルさんのお母さんが入居しているケアハウスのゲストルームに宿泊しました。101歳のお母さんは、生活のすべてにおいて自立しており、日常生活では、おしゃれを楽しみ、心の通う友人に囲まれ、理想的な老後を楽しんでおられました。その健康ぶりと気丈さには、ただただ、驚くばかりでした。



【キャロルさんとお母さん】

11月10日(土)

グロリアディ・ルーテル教会でキャロルさんが講師を務めて「旧約聖書詩編23編の修養会」がありました。私も参加を希望したものの、英語だけの話を午前中ずっと聞くことは、つらい時間になるに違いないと思ったので、後ろの席に座って参加者の為に、持参した和紙に墨、筆を使って、記念の言葉を書いてプレゼントしようと思いつきました。

出発前、訪問のお礼に、東日本大震災の鎮魂句を筆で書いてプレゼントするつもりで、和紙、硯、水滴、墨、筆を持って渡米した。その和紙に受け取る人の名前を、その場で書いて差し上げると、日本の文字の面白さを知ってもらえるのでは??…という趣向だった。

この日は、キャロルさん中心の「聖書修養会」なので、津波を詠んだ俳句がふさわしいか疑問に思い、キャロルさんに相談した。すると、「そうね～、今日は、津波の俳句はふさわしくないかもしれませんね。」「**『主は私の牧者である。』**(旧約聖書詩編23編第1節)はどうでしょうか。短いので書くのも簡単ですね～」と言ったので、急遽、車の中でそれを書くことに決めた。

会場には30名ほど集まっており、キャロルさんの「旧約聖書 詩編23編」の講座が、9時30分から13時30分まで行われた。私も、2017年1月、同じ講座をルーテル社団主催公開講座で聞いていたことを思い出した。(感想: <http://eec-2020.com/tushin/eec/79tushin.pdf>) 配布資料もほぼ同じ、プロジェクターに映し出される映像も東京で見ていたので、キャロルさんが今、どんな内容を話しているかが、だいたい、理解することができた。

この修養会は、キャロルさんの先輩であるケイ牧師と二人の友人が、キャロルさんの「詩編 23 編」の講話がすばらしかったので、多くの人に聴いてもらおうと企画した事が分かった。

講義の中盤に休憩時間があったので、15 枚ほど書き終えた和紙に胸元につけている名前をみて、その人の名前をカタカナで「○○○様」と書いて差し上げた。すると、日本の文字で書かれた自分の名前に感動して「oh ! beautiful…」と繰り返しながら、私へのハグが続いた。後半の講義中に、残りの人の分を書き、なんとか、全員に差し上げることができた。キャロルさんは、私が書いた文字の意味を説明していたらしく、とても喜んでおりました。中には、家族の名前を紙に書きながら、全員分を書いて欲しいと、要求する人もいて、それが、大きな喜びにもなりました。

11月11日（日）

日曜日の礼拝に参加する為、昨日と同じグロリアデイ・ルーテル教会に行った。次々やってくる人の中に、昨日の講座に参加した女性がそばに寄って来て「礼拝が終わったら額を買いに行くわ！」と言うではありませんか。始めは、何を話しているのか分からなかったが、キャロルさんの通訳で、やっと、理解することができました。和紙に書いてもらった、毛筆の聖句を額縁に入れて部屋に飾る、という事だった。

あまり、上手でもない書を額に入れられるのかと思うと、とても、恥ずかしく思ったが、彼らにとって、日本人が自分の目の前で、和紙に筆に墨をつけて文字を書くという、珍しい光景を目にし、宝物を手にしたような錯覚に陥ってしまったのだった。この後、3か所の教会の報告会で書いた鎮魂俳句も同じ扱いをする人が続出。用意した和紙を使い切り、仕方なく、懐紙にまで書かなければならない羽目になってしまい、何とか間に合わせる事ができ、ホットした。

礼拝が始まる少し前、一人の女性が私に声をかけてきた。

昨日の講座に参加したとおっしゃりながらジルさんと名のつた。彼女は私に向かって次のように話しかけてきた。

「わたしの父は、戦後3年間、日本でアメリカ兵士として働いていました。帰国してから父は、日本の人たちに、とても優しくされたと話していました。私の父が、**あなたの国の人たちに対して悪いことをしたかもしれませんが、どうぞ、許してください。**」



【ジルさん】

と、目を潤ませながら、語りかけてくるのでした。

話し終わると「ちょっと、待っていてください。」と言い、この場から立ち去りました。暫くして、プレーヤーショールを2枚持ってきて、私とキャロルさんにプレゼントして下さいました。

そして、私にプレーショールに込められた祈りを説明してから「一緒に祈りましょう」と言い、私たち二人とジルさん、ケイ先生、カレンさんの5人で肩を組み、輪になって、プレーショールの祈りを唱えるとジルさんはどこかへ、スッと姿を消してしまったのです。

この日の夜、何故か、ジルさんが私に話した言葉が耳にこびりついて離れず、眠ることもできず、さまざま、考え込んでしまいました。ミネソタを去る前に、日本人として、ジルさんの行為に対して何か答えて帰国しなければいけないのでは…と考えると、ますます、眠る事ができなくなってしまい、そのまま朝を迎えていました。こんな夜が3日間も続き、とうとう、キャロルさんに、この重い気持ちを打ち明け、助けを求めました。

「それは、和解の証ですネ〜。」

「ジルさんも、日本人であるあなたに向かって自分の気持ちを話したことで心が軽くなったのでしょうネ。そして、千枝子さんもジルさんの気持ちにこたえることが出来たら素晴らしいことですネ。アメリカと日本、そして、ジルさんと千枝子さんにとって、素晴らしい出会いになりましたネ」と話し、キャロルさんは、私とジルさんの気持ちを、優しく吸い取ってくれました。

このような出会いが待っていようとは、想像すらしておらず、過去の大戦が、遠い、遠いUSAの元兵士の家族にも、長い時間、重くのしかかっている事を肌で感じた初めての経験となった。私は、これを、どう考えても偶然の出来事と受けとめる事ができなかった。「クワイ河に虹をかけた男」のドキュメンタリー映画を盛岡で企画したことや自分が支援する釜石市が二度の英連邦艦砲射撃を受けて町が壊滅したという暗い歴史があること、そのために、今も、艦砲射撃を受けた7月14日と8月9日の朝にサイレンを鳴らし、黙祷する習慣が、今もあることと繋がってしまったのです。これらの歴史を積み重ねていくうちに、私は、いつしか唐丹の子供たちに「平和の創り主になろう」と呼びかけようとする姿が見え始めていた矢先の出来事だったから…。ジルさんとの短い会話を通し、「どんな事があっても、決して、戦争という卑劣な行為をしてはいけない」と、心から平和を望む時が与えられたと思っています。

夕方6時から**聖フィリップ・ルーテル教会**で報告会。

11月13日（火）ノルマンデール・ルーテル教会で報告会。

キャロルさんも和服を着て報告会に臨みました。その姿を見たミネソタの人たちはとても喜び、キャロルさんも、自分の和服姿を見た、仲間の想像以上に興奮して喜ぶ姿を見て、とても喜んでいました。きっと、ミネソタの人たちは、アメリカ人が和服を着た姿を見るのは、初めてだったのでしょう。着物に着替えて、会場のドアを開けたとたん「ウォー〜〜」と歓声が上がり、大歓迎！ 私も、「和服を持って来て、本当によかった！」と心から満足しました。

—プログラム—

- 1 東日本大震災のスライドと写真集（岩手日報社発行「平成の大津波」）の説明。
- 2 プレーショールが唐丹小・中学校に送られるまでの報告。
- 3 「ハソウと共に鎮魂の歌」を歌う：私が歌う歌詞を、キャロルさんは英語で朗読。



「鎮魂の歌」：<https://www.youtube.com/watch?v=Qeu6wVEfcQQ&feature=youtu.be>

3 日本文化の紹介

①茶道の「薄茶点前」を実演した後、全員に抹茶と和菓子を差し上げる。

会場になった教会に抹茶碗を記念品にプレゼントしました。

②鎮魂俳句を和紙に墨で書き、全員に名前を書いてプレゼント。

4 唐丹小中学生に贈った歌「I, YOU, WE」をデュエット。

「I, YOU, WE」：<https://www.youtube.com/watch?v=GWBIO7Lgtr8>

別れ際に、事前に用意した、鎮魂俳句を書いた和紙に、名前をカタカナで書いてプレゼントした。その後、私が俳句の意味を話し、キャロルさんが通訳しました。鎮魂の思いは、俳句が加わった事で、より深く心に沁みたのではと思いました。この俳句の意味を知った牧師の言葉が、私の胸に響き、今も、消えることはありません。

「私には、二人の息子がいますが、その内の一人の息子を事故で失ってしまいました。津波で多くの人の命を失った気持ちを詠んだ俳句は、わたしの心にも深く刻まれました。今日は、ありがとうございました。」

★鎮魂句二首：照井 翠 著「龍宮」から抜粋。

「三月の 君は何処にも るないが るる」

「今 母は 龍宮城の 白芙蓉」

11月14日（水）午後3時から日本宣教師会集会で報告会。

「日本宣教師会」という団体は、過去に日本で宣教師として働いた人たちの集まりです。ルーテル教会・日本宣教師会は、東日本大震災のニュースを知った直後、日本の被災者にプレーショールを贈ることを全米に呼びかけ、USA 各地の教会から日本で働くキャロル・サックさんに「東日本大震災で苦しんでいる人に届けてください。」というメッセージと共にショールが、次々送られてきたのでした。



・日本語 (Japanese)

・ 祈りショールを唐丹の子供たちに <http://eec-2020.com/tushin/eec/65tushin.pdf>

・ 「I, YOU, WE」 キャロル・サック <http://eec-2020.com/tushin/eec/80tushin.pdf>

・英語 (English) : <http://eec-2020.com/maituki/minnesota.pdf>

夜にも報告会が予定されていたので、1時間ほどの滞在で次の会場に向かわなければならず、あわただしく失礼しなければなりませんでした。集まった人たちは全員、日本で生活した人ばかりで、着物をガウンのように羽織ってくる人もいて、家庭的な雰囲気の中かで交流しました。会場は

カレン・アンデルソンさんの家庭。日本語も堪能で大の日本好き。日本の湯飲み茶わんや茶托まで沢山、揃っており、毎日、抹茶を飲んでいるとの事でした。お土産にと、用意した「ハソウ」を、カレン・アンデルセンさんに差し上げたところ「私も、ハソウを吹けるようになります。」と、目を潤ませて喜んで下さいました。カレンさん一家は、フルートやトロンボーンなどの楽器を楽しむほどの音楽一家。キャロルさんからカレンさんを推薦して頂きました。

同日、夜6時から**聖ステイブン・ルーテル教会**で**報告会**。

出席者50人ほどの中に、プレーショールを編み、唐丹へ送ってくださった5人の女性が出席しました(写真)。直接、ショールを編んでくださった方と、お目にかかり、挨拶を交わしている内に、深い感謝が沸き上がり、感動的な出会いになりました。



11月15日(木)

早いもので、もう、日本へ帰る日。

ケアハウスを7時に出て空港に向かった。この一週間は、毎日、忙しかったのですが、とても充実した日々でした。

「ミネソタで出会った、全ての方に、心から感謝申し上げます。有難うございました。」

ミネソタから届いたメッセージ

As a retired teacher and Lutheran pastor I had the privilege of sharing ministry with Chieko in Minneapolis, Minnesota, for a few days in November, 2018.

引退された牧師です。今年の11月、高館千枝子さんと数日間楽しい交流をしました。

I found her to be an enthusiastic, loving person toward all the people she met.

高館さんは沢山の人達に対してエネルギーと愛情たっぷりの方の印象を受けました。

I was overwhelmed to hear her speak about the “ministry” to which she has been called in Japan—caring for children in need who have lost so much in their personal lives because of earthquakes, tsunamis and and unexpected conditions.

高館さんの日本での働きの話聞いて —地震と津波と色々の状態で沢山失ってしまった子供達を援助する活動— に大変感動しました。

Her concern for their education and personal needs have shown the depth of her love, concern, and commitment.

子供達の教育のニーズに対する努力は高館さんのことを表していると思います。

I have never met anyone who has traveled from Japan to this country to share thanks to four of our churches who made and contributed prayer shawls for children in Japan.

プレイヤーショールを編んでくれた四つの教会の皆さんに日本からアメリカまで、感謝を伝えるためにわざわざ来てくださったのは生まれて初めてのことでした。



Chieko will remain "long in our hearts" because of her concern and love for others.

高館さんの、困った人に対する愛情を見て、千枝子さんのことはずっと私たちの心に残りますね！

Our hope and prayer is that her ministry will bring new life in Japan to those touched by her generosity.

彼女の「ミニストリー」(ビジョン)が沢山の人の新しい希望になりますように、私達も祈ります。

We will keep her and the children and families in our prayers. Thank you for sharing her with us.

高館さんと唐丹町の子供達、ご家族の皆さんのことを祈りに覚えます。高館千枝子さんをアメリカに送ってくださってありがとうございました！

Rev. Dr. Kay L. Jurgenson; Augustana Apartments; 1425 10th Avenue South; Minneapolis, MN. 55404

Dear Chieko Takadate,

I wish to thank you for the gift of the beautiful fan. I have never seen a beautiful fan like that. Karen brought it to church on Sunday. I hope your tour has been pleasant. It was kind of you to also paint the 23rd Psalm verse. I will treasure it.

I was happy to meet you and to hear about your work helping the young people and families affected by the tsunami. Thank you for sharing your story and your time. It meant a great deal to me and I will not forget.

May God Bless You and your mission,

With Love, Jill



親愛なる高館 千枝子さん、

私は美しいファンの贈り物に感謝します。私はそれのような美しいファンを見たことがない。カレンは日曜日に教会に持ってきました。私はあなたのツアーが楽しいものだったことを願っています。第 23 詩篇の詩をペイントすることは、あなたの一環でした。私はそれを尊重する。

私はあなたに会い、津波の影響を受けた若者や家族を助けるあなたの仕事について聞いてうれしかったです。あなたの話と時間を共有してくれてありがとう。それは私にとって大きな意味を持っていて、私は忘れないだろう。神様、あなたとあなたの使命を祝福してあげてください。 愛を込めて、 ジル

So many of us (about 50-55 people) were honored and blessed through the presence of Takadate San and Carol Sack. They told the story of the prayer shawls so beautifully and personally, the tea ceremony was both educational and personal, and their presence with us all was pure gift. Our prayer shawl ministry and congregation was energized by their generous presence!



Nycklemoe, Katherine

この間、私たちの教会のメンバー（50-55 人位）は、高館千枝子さんとキャロル・サックさんの訪問に恵まれました。誠に光栄でした。お二人は、プレーショールのお話を、個人の経験と日本のお茶を通して見事に教えてくださいました。私たちは色々学び、そして、参考になりとても感動しました。大きな「生きた贈り物」でした。プレーショール・ミニストリー（働き）の仲間だけではなくて教会の皆が大変励まされて、とても感謝しています。

Nycklemoe, Katherine（聖ステイブン・ルーテル教会牧師）

Thank you so much for visiting Minnesota! It was so wonderful to meet you. Thank you for the Psalm 23 習字, and for the traditional tea ceremony! I truly love the Japanese people and their traditions, and I look forward to return to Japan.

Attached is some pictures.

Blessings, Susanna

ミネソタを訪問してくれてありがとう！あなたに会うのはとても素晴らしいことでした。詩篇 23 の習字と伝統的な茶道をありがとう！私は心から日本を愛しています。 祝福、スザンナ



[東日本大震災 2011・3・11] を歌い継ぐ

♪♪♪♪...「鎮魂の歌」を歌おう...♪♪♪♪

作詞 千葉 隆男 作曲 太田代 政男

—参加登録募集(2020年まで)—

登録 Mail-Address : tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

登録 50,000 人達成に向かって

[鎮魂の歌登録方法] : <http://eec-2020.com/company.html>

【2018 年度 登録者一覧】

参加者 50,000 人目標！

参加者 21,082 名
毎月末に更新予定
(2018・12・10 現在)

12月10日(月) 嶋沢 純子 (京都アンサンブルコスモス代表)

12月8日土曜日、今年最後の歌声コスモス 開催しました。

15名のお客様、演奏者13名 スタッフ1名 29名で鎮魂の歌を合唱しました。

登録よろしくお願ひします。

12月8日(土) 高館千枝子 (唐丹希望基金代表)

えほんのもり主宰伊藤順子さん企画「えほんのもりの展覧会 2018」の会期中の講演会「東日本大震災に思いをはせる」で、ハソウと共に「鎮魂の歌」を歌いました。参加者 38 名を登録します。

◆ 「鎮魂の歌」オーケストラ演奏

・ <https://www.youtube.com/watch?v=68h4iDi-fU&feature=youtu.be>

◆ 「鎮魂の歌」オーケストラバージョン楽譜

・ <http://eec-2020.com/shiryo/gakuhu.pdf>

◆ 「楽譜」

・ 「鎮魂の歌」日本語版 ([.pdf requiem-japanese へのリンク](#))

・ 「鎮魂の歌」エスペラント版 ([.pdf requiem-esperanto へのリンク](#))

・ 「鎮魂の歌」二部合唱譜 ([.pdf requiem-japanese-two-parts へのリンク](#))

・ 「鎮魂の歌」ピアノ伴奏付き楽譜 ([.pdf requiem000 へのリンク](#))

・ 「鎮魂の歌」編曲 柴田公平 合唱譜 <http://eec-2020.com/shiryo/gakuhu2.pdf>

※もうすぐ、東日本大震災から 8 年を迎えます。多くの方に「鎮魂の歌」を歌っていただきたいと願って 50,000 人参加を呼びかけます。